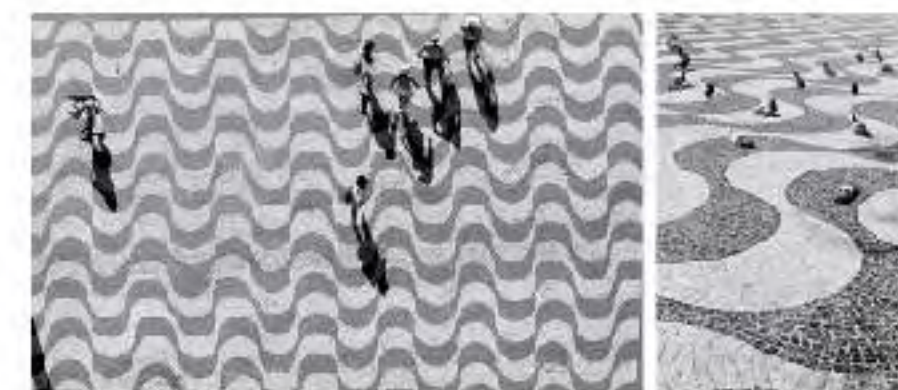


海と街の境界にガラスブロックの高い壁をつくった。それらのガラスブロックは海側に、そして陸側に弧を描きながら波打ち際にすうと伸びてゆく。現在東北の海岸線に肅々と築かれつつあるコンクリートの防潮堤に対するオルタナティブである。災害にただ対峙するためだけの寡黙な一枚壁ではなく、海を感じることができるメモリアルな場所であって欲しい。自然の猛威に対する強靭さ。一方でその美しい風景を享受するためのしなやかさ。それらを共存させるためのガラスの防潮堤という提案である。



コパカバーナビーチのパターン

コンクリートの防潮堤